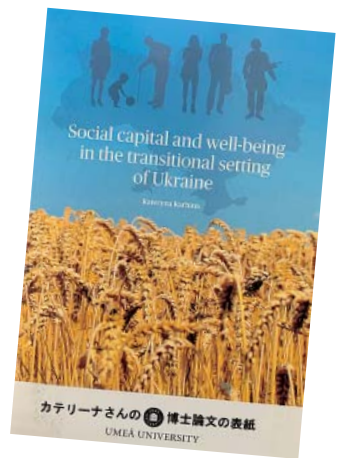


軍備に頼らない外交で平和の維持を

ウクライナの子どもたちのことを思う

社会医療法人同仁会理事
佛教大学 社会福祉学部 教授 武内 一



私は2017年度の1年間、スウェーデンのウメオ大学で疫学とグローバルヘルス学科で学びました。当時、博士課程に45人が在籍し、出身国は世界17カ国に及んでいました。私の研究期間に出会い、今も繋がっているウクライナの友人が2人います。

厳しい戦争の現実に憤りが

「署名」「募金」ができるサイト

それぞれのQRコードを読みとってください

署名

「署名」は英文です。「今すぐ賛同」をタップし、お名前などを入力した後、その下にある「今すぐ賛同」を再度タップしてください。



募金



ユニセフ



国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)



国境なき医師団日本



国連世界食糧計画 (WFP)

「署名」「募金」ができるサイト

それぞれのQRコードを読みとってください

署名

「署名」は英文です。「今すぐ賛同」をタップし、お名前などを入力した後、その下にある「今すぐ賛同」を再度タップしてください。

募金

ユニセフ

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

国境なき医師団日本

国連世界食糧計画 (WFP)

カテリーナ・カティナさんは、私の研究中に博士課程を終えられました。2014年に始まった軍事紛争によって、クリミア半島のロシア占領、ウクライナ東部の親ロシア派の実効支配が生まれました。紛争が終結しないまま、2月24日にロシア軍によるウクライナ侵襲が始まり、全面戦争へと拡大しています。彼女の博士論文の表紙には、ボール遊びする子どもや高齢者とともに、兵士の姿がシルエットで描かれ、青い空と豊かに実った小麦畑の写真は、ウクライナ国旗そのままです。

署名と募金活動にご協力を

彼女の発信を和訳しな

署名と募金活動にご協力を

彼女が発信を和訳しながら、私たちに何ができるのだろうか悩みますが、二つのお願いがあります。一つ目は、私の所属する**国際社会小児科学小児保健学会 (ISSOP)**と、**国際子ども虐待防止学会 (ISPCAN)**が合同で呼びかけている**署名活動**への協力をお願いです。①即時停戦、②武器の国境を越える移送の即時停止と兵士と武器の出身国への帰還の二つをまず、求めていきます。そして③国内に武力紛争下で犠牲を強いられる子どもたちへの人道的対応を正式に発足させることを求めています。もう一つは、さまざまな**国際機関**が窓口となった**募金活動**への協力です。私も、ユニセフ、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国連世界食糧計画 (WFP)

「何でこんなことが！」
—— そんな憤りで心が震えます。それは人を殺し、傷つける「戦争」そのものの問題だと思いません。

「何でこんなことが！」
—— そんな憤りで心が震えます。それは人を殺し、傷つける「戦争」そのものの問題だと思いません。

彼女は今、ノルウェーで研究生活を送っています。ウクライナのご家族や友人の様子を親しい仲間に向けて発信しています。それは、事実を伝えたいからであり、知って行動してほしいからです。その中では、この場でも書けない、子どもたちや少女、女性を巻き込んだ、大変厳しい戦争の現実が綴られています。

P)、国境なき医師団日本などを通じて、少しずつですが募金しています。

暴力に対して暴力で応じない

憲法9条を掲げる国の国民として、日本政府には戦闘に用いるための防弾チョッキや防毒マスクではなく、医薬品や食料の分野や難民の受け入れでイニシアチブをとってほしいと思います。ロシアの侵襲は許せないけれど、どうすればこの戦争が終わらせられるのか、私は、自国の非武装化も含めて、軍備に頼らない外交対応で平和を維持する道があると信じたいです。それは叩かない子育てと同じで、暴力に対して暴力では決して応じない、そう決めてしまえば、人の命は失われなくなるはずなんです。

現在の職業について
—— 現在の職業について思ったきっかけや理由は？

高校生の時、進路相談室の資料に、「4年生看護大学を卒業すると、救命士の試験を受けることができる」と書かれていたので、看護大学に進みました。大学4年生の消防見学の時に、「そのようなものはない」と聞き、救命センターに就職することにしようという経緯です。

仕事のやりがいや、大切にしていることは？
—— 前の職場の救命センターとは異なり、多職種が専門性を発揮してチーム

「まじめに医療に取り組んでいる集団だな」と思います。

—— 友の会や患者・利用者さんに伝えたい思いなどをどうぞ。

患者さんの治療やケアへの思いを医療者に伝えたり、医療者の言葉を患者さん・ご家族に伝えたりする、第三者として動くという役割をもったスタッフ (メディアーター) ができました。多職種で連携して医療に取り組みながら、患者さん・ご家族も一緒にその輪を作っていけたらと思いますので、よろしくお願います。

みみはら 十人十色

シリーズ
みみはらの人 19

シリーズ19回目、2022年度の初めは、4月からICU/HCU (集中治療部門) の看護師長に就かれた今田達也さんです。

で医療に取り組んでいて、多職種連携がすごくできていくということを感じました。職場では毎朝、多職種で「治療・ケアをどうしていくか」と話し合います。連携をとって、良いケアが提供できた時は、すごくやりがいを感じます。今後も、その良いところを伸ばしていきたい職場づくりができればと思います。

—— 仕事をしています。感じることは？

今回のパンデミックの中でも、保健所を減らしたり、急性期の病院を減らすような政治には憤りを感じます。

—— あなたにとって「みみはら」とは？

まだまだ改善することはあると思いますが、

患者さん・ご家族と一緒に連携の輪を

今田 達也さん
ICU/HCU 看護師長

多職種が連携してよいケアを提供したい！と奮闘される毎日。家のリフォーム (DIY) でリフレッシュされているようです。